

湖南市文化財講座「地域の魅力再発見！まち歩き・ワークショップ」開催結果

1. ワークショップの概要

第3回は下田で開催。下田まちづくりセンターに集合し、社寺や商店街を回るまち歩きを実施。その後、センターに戻ってグループワークを実施し、「下田らしい」文化財について意見交換を行った。

日 時：令和7年8月16日（土）午前9時～正午

会 場：下田まちづくりセンター

参加者：一般参加者4名、湖南市商工観光労政課4名

2. まち歩きルート

下田まちづくりセンター → 忠魂碑・顕彰碑 → ^{きょうえんじ}慶圓寺 → 日枝神社 →
→ 紺喜染織前 → えびす町商店街 → 下田まちづくりセンター

3. 内容

①地域に伝わる文化財

伝統工芸（下田焼、正藍染）名産品（下田なす、弥平とうがらし）

慶圓寺、日枝神社 → 日枝神社では毎年5月1日に祭礼（お田植踊り）

②後世に伝えていくまでの課題

- 特に伝統工芸について、後継者、担い手がいない。正藍染は残念ながら廃業された。下田焼は現役だが陶房を東寺に移され、下田が発祥というアピールがほしい。
- 外部からの移住人口が多く、地域の昔の姿を知る人が減っている。親世代が地元の歴史を知らないので子どもに伝えられない。
- まちづくりセンターの設備が古い。

③課題の解決に向けて

- 伝統工芸の存続に地域おこし協力隊などの助力を得られないか。
- 下田城跡などあまり知られていないものも多い。魅力を発掘、見える化して観光資源にできないか。
- 小学校での郷土学習、副読本などの内容見直し。生徒だけでなく教員も、歴史を知る先生と若い先生で協力。
- 小学校での歴史講座をフィールドワーク的に広げられないか。
- まちづくりセンターの整備。資料の整理や展示ができるようにし、「ここに来れば下田のことが大体わかる」という状態にする。
→ いきなり多くの人に興味を持ってもらうのは難しい。まずはまちセンに来てもらうことを目標に、子どもが自由に使える自習室としての開放など検討しては。

④その他意見

- ・ひとつの村に寺と神社がひとつずつというのは珍しい。村全体で同じ宗派というのも、住民の一体感、団結力の一因か。
- ・お田植踊りは昔は氏子の家の子しか出られなかつたが、現在は特に制限なく、希望があれば出られる。衣装がかわいらしく思い出にもなり、親御さんにも好評。
- ・小学生向けの出前講座は実施しているが、学校から個人宛に依頼しており、まちづくり協議会の方で講座の内容などは共有されていないとのこと。

3. まとめ

室町時代に開拓され、600年以上の歴史を持つ下田地域。商工業が盛んで様々な店が建ち並び、村の中だけでも生活が完結できたという。古代の集落や古墳といった遺跡はないが、市内の他地域とは味わいの異なる歴史風土を有する。

こちらでも後継者・担い手の問題はやはり挙がった。お田植踊りは門戸を広げて行事を存続されているが、伝統工芸の技術が途絶えることは深刻。また、地域の歴史を知る人が少ないと教育・普及活動に力を入れるべき、その拠点としてまちづくりセンターを活用したいが設備が不十分との声もあり、施設の整備も課題となる。



まち歩き



ふりかえり